



Mission Statement

国連システム元国際公務員日本協会
(AFICS-JAPAN) は、

- 国連システムの活動に協力します
- 会員のために必要な情報収集を行い、最新情報を提供します
- 会員相互の意見交換や情報交換のための交流会合を開催します
- 国際機関で働く人材育成を支援します

« 記事一覧 »

- 会長年頭所感
- SGH サポートプログラムの進捗
- 「TAC 国際公務員キャリア・セミナー」AFICS-J の 4 人が講話
- 海外財産管理説明会
- FAFICS Council 報告
- 会員短信：
著書紹介：森田宏子
新入会員 3 名
- お知らせ：
次期執行委員の立候補受付中
総会講演者は高須幸雄大使
2018 年度第 7 回年次総会の案内
第 4 回年金セミナー 4 月に予定
会費納入のお願い

AFICS-JAPAN

Newsletter

No.9-2018 2018 年 1 月 31 日発行

賀正 2018

年頭所感

世界で生きられる人材のお手伝いを

会長 伊勢桃代

新春のお慶びを申し上げます。2018 年の始めにあたり、AFICS-Japan メンバーの皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

AFICS-J は 2012 年の創設から 6 年が経ちました。これまでの皆様のご尽力とご協力のお蔭により、組織体制確立のための活動を続けることが出来たことに心から感謝いたします。この間、総会、国連の“時”の課題を取り上げ、元大使や担当専門家による「現場からの報告」講演会、年金や海外資産運営などの福利厚生プログラム、ニュースレター刊行や Website の運営などを行ってまいりました。

2018 年には、過去 6 年間の経験を基にして、これからの AFICS-J の課題を捉え、長・中期的方向を考えることが必要であろうと考えております。まず、メンバーの増加と財源の確保は今後の AFICS-J の在り方に影響する重要な課題であります。2018 年には、これら組織に関

わる問題を取り上げていきたいと考えております。そして活動については、AFICS-J がユニークかつ持続的に結果を積み上げていくことが出来るプログラムを考えていきたいと思っております。また、皆様のお住まいの地域にかかわらず、AFICS-J の活動にご参加頂ける様な企画作りにも努力いたしたく思っております。2018 年の課題につきましては、メンバーの方々からのご意見やご提言をよろしくお願いいたします。

2018 年の国連は、政治的にも経済的にも危機に晒されると思っております。国連が置かれた世界状況については、国連事務総長アントニオ・グテレス氏が年頭に当たり、強いメッセージを発信されました。グテレス事務総長は、着任した 2017 年が平和になるよう願ったが、結果的に逆の状況になっていることに深い懸念を表明され、こういった現在の流れに立ち向かおうというメッセージを伝えられました。事務総長は、このメッセージは「アピールではなく非常事態の警告（レッドカード）」であると宣言されておられます。

確かに国際社会は混沌とした状態にあり、大変化の時代に入っているように見えます。国連が 70 年余努力を重ねてきた普遍的また共通した価値観も危機に晒されているように感じられます。ここで多くの人が実感として思うことは、国連が目指してきた世界を創生する意欲のあるリーダーの世界的欠如であります。次世代のリーダーを育てることは、重要な先行課題のように思います。

日本として、現在の世界の状態にどう応えることが出来るのでしょうか。

ご承知のように AFICS-J は、国連の種々な機関に属し、異なった活動の实地経験と国際社会の課題についての豊富な知識を持った方々の集まりです。こういう集団であるからこそ出来る事の一つとして 2017 年に開始した試みが、世界レベルでリーダーとして活躍できる次世代、特に高校・中学生の成長に尽力する活動です。そのアプローチとしては、スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）を中心に学校訪問を行い、国連の歴史、国連で働くことの意味と内容、持続可能な開発目標（SDG）や PKO その他の活動に関する情報を提供して生徒たちと意見交換を行います。さらに国際的リーダーに必要な能力などについて先生方を交えて生徒たちと話し合う機会を持つという活動です。この活動は、現在の国連志望者の数の減少への対応及び政府が強調している国連職員の増強にも繋がるような中・長期的結果への期待をかけております。

世界では平和な日常を過ごせない多くの若い人たちが存在し、不満や恨みを持ちながら大人となります。その数が内紛により更に増加し、将来の世界平和の可能性に深い影を投げかけているのが現状であると思われます。将来の世界は、現状より悪化する可能性が高いのではないかと懸念します。

一方日本は、厳しい戦争経験をしましたが、現在は世界でも稀な安定度の高い国となり、日常生活のレベルも高く、安心して毎日を過ごせる国になりました。次世代を担う日本の若い人たちには、安定した環境の中で生きること

の恩恵を想い、人々の安全が保障される世界の構築とその実現を目指す強い国際的リーダーとなる目標に向かって成長して欲しいと思います。そして、AFICS-J がそういったリーダー育成に少しでも役立つ活動を実行出来るよう努力をする 2018 年となりますようお願いしております。

2018 年 1 月吉日

SGH サポートプログラムの進捗

昨年来、AFICS-J は中学・高校生を対象として国際的に活躍する人材育成支援を基本方針として力を入れてきた。具体的な活動プログラムを立ち上げるために、これまで執行委員会を中心に何度も勉強会を重ねてきたことは既報の通りである。この活動をさらに前進させるべく「SGH のための人材育成支援プログラム」を立ち上げ、これまで



積極的に勉強会に関わってきた会員の井上健氏がこのプログラムのコーディネーターに指名された。現在、井上氏が中心となり、活動の手始めに SGH 宛の書状「元国連職員による SGH 支援のご案内」を作成し、原則として東京地域の約 10 校の SGH 高校に支援の対象を絞り、執行委員が担当校をもって対象校選定の準備作業を行っている。お住まいの地域の SGH と接点があるかたやこの活動に興味のある会員は、ぜひ AFICS-J 事務局へ連絡をお願いしたい。

2017 年度「SGH 全国高校生フォーラム」から見える AFICS-J の課題

2017 年 11 月 25 日、文部科学省と筑波大学（SGH 幹事校管理機関）の共催による「2017 年度スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラム」が、パシフィコ横浜で開催された。このフォーラムは、SGH 指定校・アソシエイツ校など合わせて 133 校からおよそ 1000 人が参加した大規模なフォーラムであった。AFICS-J からは、山本和副会長、久山純弘監査役、井上健コーディネーターが参加した。

主催者等挨拶の後、第 1 部は、京都大学教授河合江理子氏による基調講演「グローバル人材として世界に飛び立つためには」が行われ、河合教授自身の多様な留学体験、グローバル企業や国際機関での勤務経験をもとに、グローバルな環境の中でどういう心構えで生きていけば良いかを話した。

第2部は、参加の133校が4グループに分かれて、それぞれ特徴ある活動をポスターセッションとして展示し、自校のポスターを背に英語で約10分間の発表と質疑応答を行った。各校がそれぞれに自分たちが選んで取り組んできたことを発表するこのポスターセッションは、SGHがそれなりの成果を生み出していることを印象づけるものであった。

第3部では、ファシリテーターの司会のもとに6名のSGH指定校代表生徒によるディスカッション・セッションが、英語で行われた。最後にポスターセッションの各グループの優秀校4校によるプレゼンが全員の前で行われ、その中から最優秀校が選ばれ表彰された。

- 文部科学大臣賞：佼成学園女子中学高等学校（東京）
テーマ：「多民族社会であるタイでどのような言語教育が行われ、少数言語が保存されているのか」
- 審査委員長賞（3校）：立命館高等学校（京都）、三国丘高等学校（大阪）、啓明学園中学校高等学校（東京）



参加後の感想として、まず各校がそれぞれに広い課題に関心を持って積極的に取り組んでいたが、フォーラムの参加校が取り上げた課題は、環境問題、平和構築、多文化共生、ジェンダーバランス、途上国の貧困、人権の重視、こどもの教育、SDG 格差の是正、紛争解決など、多くは国連システムが実際に取り組んできているテーマを扱っているにも拘わらず、それらの課題についての国連の役割や取組みについて、あまり触れられていないことが意外だった。

これについて、山本氏は今後のAFICS-Jの活動の課題を、以下のように指摘・報告している。

- 1) 国連が取り組んでいる分野を扱いながら、国連の役割について直接の注目が払われていないということは、AFICS-Jとして、SGHに対し、国連の果たしている役割や意義について、何らかの働きかけをする意義は大きい。
- 2) 同時に、このように多様化するグローバル社会の認識の中で、国連や国際機関の役割の大切さを認識させる活動をするに当たっては、丁寧に理解を得ながら説得的に実施するための工夫や準備が必要であり、一律に授業や講演を行えば良いという認識ではうまく行かないのではないかと。
- 3) そのためには例えば、個別の高校の関心やニーズを十分踏まえた上で、個々の状況にあったプログラムの内容や講師の理解が重要であり、成功例を積み上げて行くようなアプローチが必要と思われる。もちろん、我々自身も試行錯誤によって学ぶことが重要であるから、完璧な授業を目指して検討を続けるのではなく、ある程度のスピード感を持って今後の準備を進める必要がある。
- 4) 一方、国連の役割、注目度は社会や世界政治の状況の変化と共に変わる可能性が高い。例えば最近で

は、国連での核兵器禁止条約の成立、それを可能とした ICAN のノーベル平和賞受賞、北朝鮮の核実験、トランプ政権の環境政策、通商政策、対イスラエル政策など、善きにつけ悪きにつけ、社会的関心を集めているし、それらに対する生徒の疑問にも対応する工夫をこらしていくことが大切になってくる。

いずれにしても、高校生や高校の先生に対して国連や国際機関の仕事や果たす役割を伝えるプログラムは、相当な準備をして、また関連省庁の協力も得ながら進めることが重要である。

（報告：山本和副会長）

ICU 高校での国連講座：国連で働くこと

AFICS-J は SGH を対象とした新しい活動として、昨年 ICU 高校の原かおり教頭を招いて SGH の取組みについての勉強会を開いた。（既報ニュースレター8号）これに続いて 2017 年 9 月 2 日 AFICS-J の山本和副会長と元 UNDESA 森田宏子会員が ICU 高校に招かれ、卒業をひかえた 3 年生全員（約 250 人）を対象に合同講義を行った。ICU 高校からは、「国連で働くこと」にテーマを絞り、具体的に（１）国連を目指す意味、（２）国連で働くことの意義、（３）国連を目指すための具体的なステップや身につけておくべきスキル、専門性や価値観、（４）実際の仕事環境や課題、などについて体験談を交えて話してほしいという希望があったことを踏まえて講義が行われた。

講義の概要：

１．森田氏は、帰国子女であるという経験から、将来グローバルな仕事を目指すためには、まず自国の文化や社会を知り、自分のアイデンティティを確立することが大事であると話した。最貧

国での勤務体験で感じた開発援助の難しさに触れると同時に、NY 本部勤務では、国連の首脳レベル会議の支援で、長い議論を重ねて最終合意書が採択されたときは、外交官、事務局、関わった国連機関や非政府団体と喜びを分かち合うことができる。それが国連の仕事のやりがいであり、手応えのある仕事だということを強調した。また、国連職員に必要な基本的能力として、コミュニケーション能力、思考力、交渉力、決断力や臨機応変性などを挙げた。最後に、若いうちにやれることとして、時事問題への関心、外国（特に途上国）への旅行、英語力や公用語の習得、ボランティアやインターンなどの体験を勧めるアドバイスをした。

２．山本氏は、国際機関に関わる様々な活動を行ってきたが、いずれも平和構築などの公的目標を持つ「非営利組織」の仕事を通じて社会に貢献するという一貫性があったと述べた。国連機関での勤務の中で、特にユニセフの



「子供のための世界サミット」での経験を通じて得た、「夢」を持って仕事をする大切さ、「夢」の実現のためにそれを温め続け、タイミングをみて戦略に基づいた決断すること、そして「夢」は誰にでもわかりやすい形で提示することが直面する困難を乗り越える鍵であることの3点を強調し、ユニセフでの経験が自信をもたらしてくれたことを語った。最後に、国際機関の活動は様々な分野から、あらゆる時点で参加できるので、目的意識、戦略的視点を持つこと、活動の根底にあるのは差別なく奉仕する精神と、世界のどこにいても人間は尊重されるべきであるという国連の理念が活動の基本であり、真の国際性は普遍性をもつものでなくてはならないということを伝えた。

二人の講義に対する生徒たちの感想で多かったのは「国際機関が遠い存在でなく、身近な存在であることを知り、将来の選択肢が広がった」「多国籍の人が働く国連では、英語だけでなく他の言語も知っておく方が良い事がわかった」という2点であった。さらに、「夢を持つべきという話、仕事の中で一貫性を持つという生き方」「男女平等に生き生きと働ける、やりがいを持つ事の大切さ」「世界のために働くという正義感」「国連で働くために必要な様々なスキルを磨くことの重要性」「計画を実現するためには、周到な準備と忍耐強い実行力が必要である」など様々な意見や感想が述べられた。

高校生たちが、1時間半に及ぶ講義に対して熱心に話を聞き、積極的に質問をする姿勢は、今後の AFICS-J の中学・高校生をターゲットとした国際的な人材育成支援のプログラムを推し進めていくことの意義を感じさせる。

（報告：山本和副会長、森田宏子会員）

外務省国際機関人事センター x TAC*プログラム

「TAC 国際公務員キャリア・セミナー」で講話

外務省国際機関人事センターは、先に行われた AFICS-J との意見交換を反映するかたちで、9月25日19:00から「TAC 国際公務員キャリア・セミナー」【元国際機関職員にいろんな話を聞いてみよう！】をTAC八重洲校において開催し、学生や社会人を含めて70人の参加があった。このセミナーのスピーカーとして AFICS-J から、元 UNICEF/IMF の山本和副会長、元 UNDP/PKO の登丸求己執行委員、元事務局図書館の佐藤純子執行委員、元 WHO の千田亨会員（発表順）の4人が参加を申し出て、それぞれが講話を行った。

*TAC は「資格の学校」で知られ、国内だけでなく国際的な資格の取得講座も開設し、様々な分野でキャリア・アップ支援事業を展開しているベンチャー企業である。

講話者は、国連で働くというテーマの中で、人事センターとの意見交換で特に強調された以下のポイントに焦点を当てて、自身の経験を話した。

- ✧ 国際機関での仕事のやりがいと生きがい、使命感
- ✧ 仕事の中で、どう修羅場を切り抜けてきたか
- ✧ 国際機関でのワークライフ・バランス
- ✧ 国際機関の給与・福利厚生の実態
- ✧ これから国際機関を目指す方へのメッセージ

セミナーは、はじめに AFICS-J の 4 人がひとり 15 分の持ち時間でスライドによるプレゼンテーションを行い、のちに参加者がそれぞれに質問をするという形式で行われた。プレゼンテーションでは大幅な時間超過もあったが、参加者の率直な質問が相次ぎ、予定時間を超えて 2 時間以上にわたり、終了後も個々に質問する参加者が続いた。

プレゼンテーションの概要：

1. 山本氏は、世界平和という共通の使命に共感して国際機関で働くことを選んだ。日本銀行に勤務していたことから、最初はエコノミストとして IMF に、その後 UNICEF 財務局長として 5 年間勤務したことをもとに国際機関の経験を話した。山本氏は、この講演のテーマで求められたポイントを丁寧にカバーしながら自身の体験を話した。自分が頑張っていれば仕事は向こうからやってくる、普段からの人間関係の構築が修羅場を乗り切る力になる、目的意識をもって学び、初心を貫いてほしい、など貴重なメッセージを伝えた。

2. 登丸氏は、まず会場の共通理解のために、国連の使命、国連の仕事また国連職員とはなにかについて簡単に解説した。そして UNDP と PKO の経験から、専門分野である国連の貧困撲滅の取り組みすなわち経済社会開発の仕事について述べた。なぜ国連を目指したのかについて、学生時代に一人旅でインドを訪ねた時、スラムで見た深刻な貧困の現実に衝撃を受け、貧困撲滅の仕事が使命感となったこと。その後一念発起、アメリカに大学院留学を果たし専門知識と英語の習得をはかって、ようやく国連開発計画（UNDP）に採用された経緯を話した。

3. 佐藤氏は、長く国連事務局図書館に在職した経験をもとに国連職員について話した。国連はグローバルな職場で、国際公務員として様々な国籍の職員が世界中で働いている。そこでは、専門分野での知識やスキルだけでなく、多文化社会における適性や能力が求められる。国連での仕事はチャレンジであり、やりがいや生きがいを感じられるだ



けでなく、就業環境も理想的で、男女差別もなく働きやすい職場といえる。最後に、国際公務員は日本人であっても日本のために働くのではなく、国連の使命・目的のために働くことを強調した。

4. 千田氏は、貿易商社から WHO 事務所に転身した。専門分野は、主に調達や業務調整などを担当するアドミニストレーション。千田氏は企業にいた時から途上国政府との関わりで国際協力や国連業務に関心があり、WHO のリクルートミッションを機に転身を決めた。国連での仕事は、世界のために働くという使命感、世界の問題解決につくすという達成感、それに対する国際社会からの適正な評価を受けることが、国連で仕事をするやりがいである。国連を目指す人たちには、使命感をもって即戦力となり自主性を発揮して活躍してほしい。

TAC のアンケートによると、参加者は院生を含む大学生と社会人がおよそ半々で、ほとんどは講話内容に満足だと答えている。参加者がいちばん興味を持っている点のひとつが「なぜ、国連で働きたいと思ったか」であったが、「参考になった点・初めて知った点」を見ると趣旨が十分に伝わっていることが分かる。「もっと詳しく知りたかったこと」を見ると講話で触れられた点についてやはり体験をもとにもっと具体的な話が期待されている。一方、講話の構成や時間の使い方に対する改善が求められていた。耳が痛いネガティブなコメントもなくはなかったが、セミナーはかなり有効だったと受け止められている。アンケートのコメントだけでなく、終了後の質問者を見ても佐藤氏のプレゼンが女性のキャリアという視点から多くの参加者の注目を浴びていた。

この外務省人事センター・TAC 共同プログラムを振り返ってみると、AFICS-J にとっては今後にもつながる大変有意義な機会であった。ただ、初めての試みで改善すべき課題が多くあったと思われる。まず限られた時間に 4 人の講話者が一人 15 分で話をするのには限界があること、誰が何を話すかの調整がないために内容の重複や誰も触れない点が出る心配があること、アンケートを見ると参加者の背景となる国連の知識や理解が必ずしも一様ではないことが分かる、などが今後の課題であろう。また、国連という多国籍・多言語・多文化の職場環境における日常業務の実際やそこでおこるエピソード、フィールドにおける命がけの危機管理など、AFICS-J メンバーには、若い人たちがワクワク・ドキドキするような血沸き肉躍る現場の話をたくさん持っている人がいるにもかかわらず、以上のような課題を抱えたままとなかなか話がそこまでたどり着かないのである。

海外資産に関する説明会

AFICS-J 会員の多くは、海外勤務経験が長いことから、海外資産の管理についての関心が高く、疑問も多く寄せられている。AFICS-J ではその要望に応えるべく情報提供の機会を作ってきた。2016 年 2 月に元国税調査官

で税理士の茅野昭一氏を講師として「国外財産調書制度」に関するセミナーを開催し、国外財産調査制度だけでなく、日本の相続税変更についても説明を受けた。（既報ニューレター 6 号、<http://www.afics-japan.org>）
これに続いて、2017 年 10 月 11 日 SMBC 信託銀行横浜支店において「海外資産の税制に関するセミナー」を開催し、出席者は 12 名であった。



はじめに伊勢会長が、今回のセミナー開催に尽力をいただいた SMBC 信託銀行横浜支店の米野弘雄支店長と、講師の税理士法人山田 & パートナーズの宇佐美敦子税理士に感謝の言葉を述べた。宇佐美氏は、海外資産を保有している場合、また海外からの所得がある場合の税制、その資産に対する相続税、2012 年の税制改正による国外財産調書の提出義務、新たに始まる CRS 制度（海外にある金融口座の国際情報交換制度）の動きなどと日本

居住者に求められる対応について約 1 時間にわたって解説した。

1. 海外財産における所得税

海外資産にかかる日本国内での所得税の納税義務の範囲は、納税義務者が①永住者である居住者、②永住者でない居住者、③非居住者で違いがある。永住者である居住者は居住者である限り、全世界で発生した所得について、日本の所得税の課税対象となる。ただし、海外で課税されている場合は、二重課税にはならないような配慮がされていて、外国税額控除の適用がある。その場合は、確定申告が必要になる。

2. 海外財産における相続税

相続税に関しては、色々のケースがあって一概には言えないが、被相続人が日本国内に居住している場合、原則、相続人は居住・無制限納税義務者、又は非居住・無制限納税義務者となり、日本国内にある財産のみならず国外財産も含めて日本の相続税の課税対象となる。また、海外にある財産を相続する場合、手続き上かなり難しいことであり、弁護士、税理士の助けが必要になるケースが多い。

3. 国外財産調書

その年の 12 月 31 日において保有する国外財産の価格の合計額が 5,000 万円を超える居住者は、翌年の 3 月 15 日までに、「国外財産調書」を所轄税務署に提出しなければならない。留意点として、虚偽の記載、正当な理由がなく提出期限を守らなかった場合には罰則規定がある。また、申告漏れ等に係る国外財産を記載した国外

財産調書を提出している場合の優遇措置と、記載の漏れた国外財産調書を提出している場合、及び国外財産調書を提出していない場合の加重措置についても触れられた。また、金融資産をジョイント口座で持っている場合は、持ち分が定まっている場合はその持分に応じることになるが、持ち分が定まっていない場合の判断は、相等に推定して決めることになる。

4. CRS 制度の概要

外国にある金融機関等を利用した国際的な脱税及び租税回避に対処するため、非居住者に係る金融口座の情報を、税務当局間で自動的に交換するための基準である「共通報告基準 (CRS: Common Reporting Standard)」が公表され、日本も 2018 年中に初回交換の実施が行われることになった。

注：米国は本制度でなく、Foreign Account Tax Compliance Act (FATCA)による情報交換を実施している。

出席者からは、米国内に保有する銀行口座に振り込まれている国連年金を米国以外の国で引き出す場合、所得税はどこで発生するのかという質問があった。国連年金に対する課税は複雑なので、ケースごとに詳しく調べないとはっきり答えられないということであった。また、NY にある不動産を NY に居住する子供たちが相続する場合、米国と日本の相続税との関わりについて確認の質問が出された。

最後に、SMBC 信託銀行は元シティバンク銀行であり、そのサービス内容は以前と変わっていないこと、例えば口座残高に応じて、口座維持手数料、ATM 手数料、振込送金手数料を優遇するサービスがあることなど、他の国内の銀行との差別化があることの説明があった。（記録：宮地節子執行委員）

（税理士法人山田 & パートナースは、<https://www.yamada-partners.gr.jp>）

（SMBC 信託銀行は、<https://www.smbctb.co.jp>）

FAFICS Council 年次総会報告

2017 年 7 月 17-20 日、第 46 回 FAFICS Council（元国際公務員協会連合会議）年次総会がウイーン国連事務局の IAEA 会議場で開催された。Council 開催に先立ち、7 月 16 日午後から役員会（Bureau Meeting）が開催された。7 月 17 日に二つの常設委員会（Standing Committee on Pension Issues; Standing Committee on After-Service Health Insurance (ASHI)）、7 月 18-20 日に Council が開催された。佐藤純子執行委員は AFICS-Japan を代表して Council 及び常設委員会に、また FAFICS 副会長として役員会に出席をした。

年金関連では、UNJSPF（年金基金）から CEO の Sergio Arvizu 氏をはじめ多くの上級職員が出席し、以下のようなプレゼンテーションを行った。

- ✧ 年金の支払いの遅れ：新しい年金システム、IPAS 導入に伴って起こっていた年金処理の遅れはすでに解消しつつある。年金の支給開始にあたって、はじめに手続き書類一式をそろえることが条件だが、最初の年金支給の遅れの主な原因は、書類の不備にある場合が多い。
- ✧ 配偶者に対する年金：配偶者に対する支給手続きの問題が多数報告された。今後年金オフィスは各国の AFICS の協力を仰ぎ、配偶者に対する年金支給の問題解決に努める。
- ✧ Certificates of Entitlement (CEs)：年金を継続的に受給するためには、毎年 CEs にサインをする必要がある。CEs があて先不明で配達されないケースが多い。年金オフィスは各国 AFICS に対し受給者の消息情報についての協力を要請することがある。
- ✧ 年金のアウトリーチ活動：AFICS-J では、年金オフィス在籍の日本人職員による年金セミナーを定期的に行っている。CEO の Arvizu 氏は同様なアレンジメントを他の国でも行い、年金のアウトリーチ活動の一環としたいと述べた。
- ✧ 国連年金の投資状況：年金基金の投資は常に短期的ではなく長期的投資を目指している。2017 年 6 月 14 日の国連年金基金の市場価格（Market Value）は 59 兆ドル（\$59,966 billion）。基金は長期的に見れば富を増やしているものの、短期的には不安定な状態。しかし実質利益率（the real rate of return）3.5%は現実的なターゲットである。
- ✧ 投資先：基金はいろいろなところに投資を行っているが、タバコ、武器関連企業には投資を行っていない。他方、持続可能な開発(SDGs)や環境問題に留意し、この分野への投資を積極的に行い、又利益も上げている。

その他、ASHI と各国内健康保険、会員の高齢化の取組みなどについての議題が取り上げられた。新たに役員改選選挙が行われ、副会長以外の役員は、候補者数と定員数が一致したので選挙なしで選出された。副会長職に関しては、7 人の定員に対し 10 人の候補者があったが、投票の結果 AFICS-J の推薦を受けた佐藤純子執行委員を含む 7 人の副会長が決まった。（報告：佐藤純子執行委員）

会員短信

新入会員：久木田純さん（UNICEF）、高瀬千賀子さん（UNCRD）、忍足謙朗さん（WFP）が、新たに会員となりました。

著書紹介：『仕事とわたし、どちらが大事なの？－国連ママの子育て記』文藝春秋、森田宏子（元 UNDESA）二つのメッセージを込めた。まず日本のキャリア女性に、子育てのためにキャリアを諦めないでほしい、両立は工夫次第

で可能になるという思いが一つ。そして子育ては、乳幼児期だけでなく思春期が特に大変だが、親が寄り添うことを自身の体験談を通じて伝えたい。国連で働く女性、家庭を持つ母親の観点からの日常を一般の方にも知ってほしい。国連会議や開発現場で直面した「危機管理」能力や持続可能な開発の現実的意味は育児にも繋がるという指摘をしながら、国連の手厚い子育て支援制度についても触れている。

お知らせ

● 役員の改選選挙（執行委員6-10名、監査役1名）

立候補受付中 – 皆様の力を貸してください–

現行役員の任期満了にともない、3月28日の年次総会で改選選挙を行います。多くの会員の皆様からの自薦・他薦による立候補をお願いいたします。立候補のお問い合わせは、AFICS-J選挙管理委員会（afics.japan@gmail.com）までご連絡ください。

● 総会講演は高須幸雄大使・前国連事務次長

今年の総会（3月28日）「現場からの報告」では、外務省ならびに国連で要職を歴任された高須幸雄大使による講演を行います。現場での貴重なお話を期待しています。是非ご参加ください。

● 第7回年次総会の案内：

2018年3月28日（水）17:30 国際文化会館で開催予定
総会 17:30、講演「現場からの報告」18:30、懇親会 19:30（会費 8千円）最寄駅「大江戸線麻布十番」7番出口から5分
今から予定表に記入しておかれるようお願いします。

● 第4回国連年金セミナー4月に開催予定、講師は元 UNJSPF 職員の永吉紀子氏。

● 会費納入のお願い：

2018年会費（5千円）の納入をお願いします。
三菱東京 UFJ 銀行麹町支店（店番 616） 普通預金
口座番号 0118643、
口座名義：アフィックス ジャパン ヤマト カノウ
（AFICS-Japan 山本和）

☆前年度会費未納の方は、その分も合わせてお振込みください。
なお、年会費は3月28日の年次総会受付でも納入できます。

発行：国連システム元国際公務員日本
協会（AFICS-Japan）執行委員会

Email: afics.japan@gmail.com

Web: www.afics-japan.org

《国連人》

独裁国家、でも長閑な遊牧民の国だったころのソマリア駐在の話である。最貧国で、仕事以外これといった楽しみはない。ある日家族のためにと野生のカバを探しに行くことにした。休日のため、自分で運転して辺境の田舎に出かけたのが事件の始まりだった。

人家もないサバンナで、トタン板の高い塀に囲われた建物の横を通過した時、数台のジープが飛び出してきた。取り囲まれた。十数人の民兵が無言で機関銃を向けている。もちろんソマリア語は話せない。前任地で覚えた片言のアラビア語を駆使して、必死に国連職員は敵ではないことを訴えた。

リーダーらしき男はずっと無言で睨みつけたままだ。いったい何分くらいの沈黙だったのか、最後に顎で「行け」という合図をした。「帰心矢の如し」妻も息子も無言、アクセルを踏む足が震えずととまらなかった。（編集子）